

出光真子

おんなのさくひん

ある映像作家の自伝

Idemitsu Mako What a Woman Made

2026年6月18日[木]—9月21日[月・祝]

東京都写真美術館2階展示室

主催：東京都、

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

Thursday, June 18 — Monday, September 21, 2026

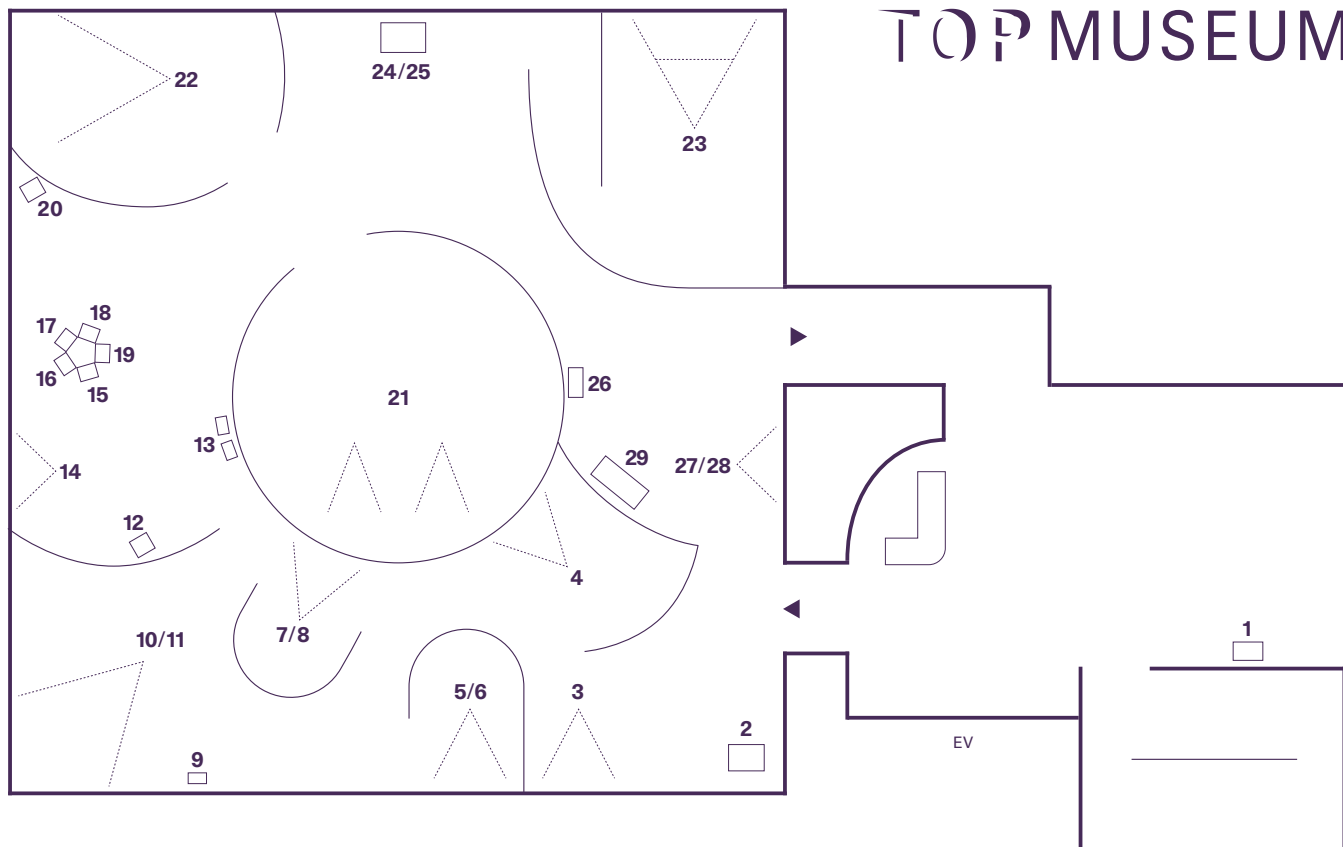
Tokyo Photographic Art Museum, 2F Exhibition Gallery

Organized by Tokyo Metropolitan Government,

Tokyo Photographic Art Museum operated by

the Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture

- | | |
|--|--|
| 1 《祖母・母・娘》 | 1 <i>Grandmother, Mother, Daughter</i> |
| 2 《主婦の一日》 | 2 <i>Another Day of a Housewife</i> |
| 3 《Woman's House》 | 3 <i>Woman's House</i> |
| 4 《おんなのさくひん》 | 4 <i>What a Woman Made</i> |
| 5 《At Santa Monica 1》 | 5 <i>At Santa Monica 1</i> |
| 6 《Inner Man》 | 6 <i>Inner Man</i> |
| 7 《Baby Variation》 | 7 <i>Baby Variation</i> |
| 8 《Something Within Me》 | 8 <i>Something Within Me</i> |
| 9 《Make Up》 | 9 <i>Make Up</i> |
| 10 《At Yukigaya 2》 | 10 <i>At Yukigaya 2</i> |
| 11 《At Santa Monica 3》 | 11 <i>At Santa Monica 3</i> |
| 12 《Next》 | 12 <i>Next</i> |
| 13 《女たち》 | 13 <i>Women</i> |
| 14 《At Any Place 4 :
ヨネヤマ・ママコ作
「主婦のタンゴ」より》 | 14 <i>At Any Place 4 :
From the Habanera of a Housewife
by Yoneyama Mamako</i> |
| 15 《シャドウ パート1》 | 15 <i>Shadow Part 1</i> |
| 16 《アニムス パート2》 | 16 <i>Animus (Inner Man) Part 2</i> |
| 17 《グレート・マザー 晴美》 | 17 <i>Great Mother (Harumi)</i> |
| 18 《グレート・マザー 幸子》 | 18 <i>Great Mother (Sachiko)</i> |
| 19 《やすしの結婚》 | 19 <i>The Marriage of Yasushi</i> |
| 20 《英雄ちゃん、ママよ》 | 20 <i>Hideo, It's Me, Mama</i> |
| 21 《Still Life》 | 21 <i>Still Life</i> |
| 22 《Real? Motherhood》 | 22 <i>Real? Motherhood</i> |
| 23 《直前の過去》 | 23 <i>The Past Ahead</i> |
| 24 《清子の場合》 | 24 <i>Kiyoko's Situation</i> |
| 25 《加恵、女の子でしょ!》 | 25 <i>Kae, Act Like a Girl!</i> |
| 26 《父の情景》 | 26 <i>Emotional Volatility about My Father</i> |
| 27 《たわむれときまぐれと》 | 27 <i>Play and Capriciousness</i> |
| 28 《ざわめきの下で》 | 28 <i>Whispering Light</i> |
| 29 資料 | 29 <i>Related Materials</i> |



本展覧会はすべて映像作品による展示です。音声の文字起こし資料をご用意しています。ご希望の方は2階受付へお声がけください（筆談可）。

作品リスト

[凡例] <p>作品データは、作品番号、作品名、制作年、媒体（展示・上映形式）、上映時間、所蔵、クレジットの順で記した。所蔵表記のないものはすべて東京都写真美術館蔵。</p> *インスタレーションとして制作された作品。

- 1** 《祖母・母・娘》*

1976年 | 3チャンネル・ビデオ | 白黒 | サイレント | 作家蔵

3台のモニターに、祖母(出光の母)、母(出光の姉)、娘(出光の姪)が煙草の空き箱と戯れる様子が同時に映し出される。出演する3名は空き箱を前に好きなことをするよう指示され、思い思いの行動を取る。渋谷・西武百貨店で発表された初のインスタレーション作品。

- 2** 《主婦の一日》

1977年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | サウンド(日本語歌詞) | 9分50秒

出光本人が出演し、主婦の日常を長回しで捉える。ビデオモニターに大きく映し出された、出光本人の目が主婦をつきまとうように監視する。社会的につくられた主婦という立場が、世間からの眼差しに加えて彼女本人の内なる目によっても内面化されていく様子を描く。

- 3** 《Woman’s House》

1972年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド | 13分40秒 | 音楽：ジュリアン・ブリーム

本作で舞台となるのは、美術家ジュディ・シカゴとミリアム・シャピロ、その学生たちによって企画されたプロジェクト「ウーマンハウス」。二人は1971年にカリフォルニア芸術大学で、女子学生のための教育プログラムを組織した。出光は「ウーマンハウス」を訪れ、この新鮮で衝撃的な体験を記録し共有したいと考え、撮影許可をジュディ・シカゴから得る。様々な人々の協力と試行錯誤により、編集に約1年を要しながら、初めて16ミリフィルム作品として完成させた。

- 4** 《おんなのさくひん》

1973年 | シングルチャンネル・ビデオ | 白黒 | 日本語／英語ナレーション | 11分

1973年の夏、家族とともに一時帰国した出光が、ビデオ上映会への出品を打診され、制作した初のビデオ作品。映像作家かわなかのぶひろ、道下匡子らの協力により、当時まだ珍しく高価で編集も困難の多い白黒のオープンリール式のビデオ機材で撮影、ソニーの展示場で編集した。フィルムとは全く異なるメディアであることに驚きつつ、以前から撮りたかったという、トイレに浮かぶ使用済みのタンポンを撮影した。

- 5** 《At Santa Monica 1》

1973年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド | 5分30秒 | コンピューター・グラフィックス：ジョン・ホイットニー・シニア | 音楽：ピンク・フロイド

主婦としての責務を果たすことが求められた出光に、制作のために許されたのは「こまぎれの時間」であった。そうした状況であっても創作への情熱は消えず、出光は被写体として興味を感じたものがあれば車に子どもたちとカメラ機材を載せ、ただちに出向いたという。本作の場合、顔の整形手術を受けた友人からの電話を受け、すぐさま撮影に向かった。鏡の中の自分を見つめる整形手術後の女性の顔には、コンピューターによる幾何学的グラフィックが重ねられる。

- 6** 《Inner Man》

1972年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド | 3分40秒

出光は渡米後、ユング心理学の夢分析を受けるようになる。着物姿で舞う女性の映像に、自己陶醉したように裸で踊る白人男性像がオーバーラップする本作には、出光自身が大きな影響を受けたスイスの心理学者カール・グスタフ・ユングの思想が直接的なかたちで反映されている。ユングのいう、女性の心の内にある男性的なもの「アニムス」が描かれ、技術的には二重焼き付けが用いられている。

- 7** 《Baby Variation》

1974年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド | 8分 | 音楽：ジョン・フェイヒー、ジャニス・ジョプリン

映像はヌメヌメと動く肉と血のクローズアップから始まり、着色された色鮮やかなレバー（肝臓）が軽快に揺れる光景へと移り変わる。ジャニス・ジョプリンの「マイ・ベイビー」等の音楽を背景に、作品の後半では、唇のクローズアップから薔薇を食べる一連の動作も加わり、エロティックで、生理感覚に直接訴えかける内容となっている。

- 8** 《Something Within Me》

1975年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド | 9分30秒 | 音楽：高橋アキ

カリフォルニアの透き通るような陽光の元で、アメリカと日本、意識と無意識、両者の間をただよう出光の心の揺らぎを捉えている。カーテン越しに揺らめく植物の影、花卉のクローズアップ、うごめく大量のカタツムリなど、触覚的なイメージが組み合わせられる。音楽は、夏の終わりに子どもたちと日本に戻った後、ピアニストの高橋アキが映像に合わせ録音した。

- 9** 《Make Up》

1978年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | サウンド | 9分

ビデオカメラとモニターを使い、出光が化粧をおこなう一部始終をリアルタイムで映し出す作品。モニターは鏡の役割を果たすが、カメラとモニター間にはわずかにディレイが発生し、また鏡では左右逆

になる像がモニターでは正像として映る差異が、新たな表現の可能性を生み出している。

- 10** 《At Yukigaya 2》

1974年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | 白黒 | サウンド | 11分10秒

「第2回アンダーグラウンドシネマ新作展」に出品することになったものの、フィルムを手に入れる余裕のなかった出光は、部屋の中でハイコントラスト・フィルムを見つける。通常はタイトルやクレジットを撮影するために使われる高価なフィルムである。迷わずハイコントラスト・フィルムで撮影することを決め、フィルムが高感度であるため、光に敏感に反応するという特性を念頭に、ガラスの破片や小石に陽が射す瞬間、木漏れ日、新幹線の灯りなどを撮影した。日本とアメリカを行き来して暮らす出光の、どちらの国にも属していない自身の心の風景の表現でもあった。

- 11** 《At Santa Monica 3》

1975年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | 白黒 | サウンド | 15分30秒 | 音楽：ジョン・ケージ

前年に制作された《At Yukigaya 2》と同様にハイコントラスト・フィルムを使用し、数年間暮らしたサンタモニカの家とその周辺の風景を撮影している。光と影の動きや水面の反射、光の明滅などを捉え、抒情的でありながら実験的な趣を持つ。

- 12** 《Next》

1973年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | 英語ナレーション | 3分30秒 | 絵と台詞：CIBA | ナレーション：マーロウ・ジェンセン

画家CIBAによるドローイングとテキストを映像化した作品。男性のナレーションが、鏡像状の二つのイメージに合わせて同じ言葉を繰り返す。《Inner Man》や〈シャドウ〉シリーズ等とも連関するような象徴形式にユーモアが混在する。

- 13** 《女たち》*

1977年 | 2チャンネル・ビデオ(オリジナル:6チャンネル・ビデオ) | 白黒／カラー | サイレント | 作家蔵

出光は女性のための場である「ホーキ星」を訪れ、女性解放運動に関わる4名の女性に協力を依頼。それぞれにビデオカメラを渡し、彼女たちに撮影を依頼。さらに彼女たちが撮影する様子を撮影。さらに、これらの映像を自宅で上映し、出演者たちと鑑賞する様子も撮影した。展示の際は、これら3種類の映像を計6台のモニターで見せた。銀座・白樺画廊の個展に合わせ制作されたインスタレーション作品で、現在は6台のモニターのうち、2台分のテープが残る。

- 14** 《At Any Place 4：ヨネヤマ・ママコ作「主婦のタンゴ」より》

1978年 | シングルチャンネル・ビデオ(オリジナル:16ミリフィルム) | カラー | サウンド(日本語歌詞) | 12分30秒 | 脚本と演技：ヨネヤマ・ママコ | パン

- トマイム撮影：御子柴滋 | 音楽：ジョルジュ・ビゼー
- ヨネヤマ・ママコが1975年の国際女性年のために自作自演した伝説的パントマイム「主婦のタンゴ」を、出光は1977年に日比谷の野外音楽堂で観る機会を得た。公演に共感し感動した出光は、ヨネヤマのパフォーマンスの背景に、自身が撮りためた映像をオーバーラップさせた作品として完成させた。

- 15** 《シャドウ パート1》

1980年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | 日本語（英語字幕付） | 25分30秒 | 撮影：マイケル・ゴールドバーグ

カナダ人のビデオアーティスト、マイケル・ゴールドバーグが初めて撮影に協力した作品で、ピクターからプロ用の機材を借りて制作された。ユングの概念、元型の一つであるシャドウ(影)を主題に用い、抑圧された女性のパーソナリティの抑圧された負の部分扱っている。ビデオモニターの中では出演者それぞれが抑圧したシャドウの姿が描かれ、出演した女性たちはいずれも素人で、シナリオはなくアドリブで演じた。

- 16** 《アニムス パート2》

1982年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | 日本語／英語 | 19分40秒 | 撮影：マイケル・ゴールドバーグ | パフォーマンス：岸本清子

出光が芸術家・岸本清子のパフォーマンスを見たときに感じた「アニムス」(女性の心の内にある男性的なもの)像を作品化した。出光は岸本に「アニムス」の肯定的側面、すなわち企画力、批判力、言語表現、勇気、精神的深さといった要素を見出し撮影を申し込んだ。作品内では実際に、岸本人が代表作《地獄の使者》を出光の自宅を舞台にパフォーマンスしている。

- 17** 《グレート・マザー 晴美》

1983年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | 日本語（英語字幕付） | 13分 | 脚本：条田瑞穂 | 撮影：マイケル・ゴールドバーグ

「グレート・マザー（太母）」とはユングが提唱した元型の一つ。集合的無意識の中に存在する母なるものを指し、子どもを慈しみ包み込むように愛を与え尽くす存在を指す。同時に子どもを包み込むことは、その存在を呑み込むことにも繋がる。子どもを独占、束縛しようとし、自立を阻む存在にもなり得る。本作では、登校拒否をする娘の深層心理が描かれる。

- 18** 《グレート・マザー 幸子》

1984年 | シングルチャンネル・ビデオ | カラー | 日本語（英語字幕付） | 18分50秒 | 脚本：条田瑞穂、出光真子 | 撮影：マイケル・ゴールドバーグ | 特別協力：高橋義光 | 技術協力：日本電子専門学校

若い夫婦と、妻の母という、同居する三人の関係性を描く。妻である娘と母の依存関係は夫を疎外し、夫はアルコールに依存するようになる。母は娘を束縛し自立を阻み、娘も母を厭うことなく過度に密着した母娘関係が生まれていく、母性の持つ暗い闇を描いている。

4 *What a Woman Made*

1973, Single-channel video, B&W, narration in Japanese and English, 11 min.

In the summer of 1973, while temporarily back in Japan with her family, Idemitsu was asked to submit work for a video screening, and so she created her first video piece. With the assistance of video artists Kawanaka Nobuhiro and Michishita Kyoko, she filmed using black-and-white open-reel video equipment, which was rare, expensive, and difficult to edit at the time, and edited it at a Sony showroom made available for the purpose. Surprised by this medium that was so different from film, Idemitsu filmed something she had long wanted to capture: a used tampon floating in a toilet.

5 *At Santa Monica 1*

1973, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound, 5 min. 30 sec. Computer Graphics: John Whitney Sr. Music: Pink Floyd

Expected to fulfill her duties as a housewife, Idemitsu was allowed only “scraps of time” for her creative work. Her passion for creation, however, never waned. Whenever something caught her interest as a subject, she would load her children and camera equipment into the car and head out immediately. In the case of this work, she received a call from a friend who had undergone facial plastic surgery and immediately set out to film. The face of the woman post-surgery gazing at herself in the mirror is overlaid with computer-generated geometric graphics.

6 *Inner Man*

1972, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound, 3 min. 40 sec.

After moving to the United States, Idemitsu began undergoing Jungian dream analysis. This work, where the image of a woman dancing in a kimono overlaps with that of a white man dancing naked in a self-absorbed manner, directly reflects the ideas of Swiss psychologist Carl Gustav Jung, who profoundly influenced Idemitsu herself. Using the technical method of double exposure, it depicts the masculine aspect within the female psyche that Jung describes as “animus.”

7 *Baby Variation*

1974, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound, 8 min. Music: John Fahey, Janis Joplin

The footage here begins with a close-up of slimy, moving flesh and blood before transitioning to a scene of a vividly colored dyed liver that sways gently. Set to music including Janis Joplin’s “My Baby,” the latter part of the work incorporates a close-up of lips followed by the act of eating a rose, appealing

to the viewer in an erotic and physiologically direct way.

8 *Something Within Me*

1975, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound, 9 min. 30 sec. Music: Takahashi Aki

This work captures the fluctuations of Idemitsu’s mind as it drifted between America and Japan, and between consciousness and unconsciousness, under California’s transparent sunlight. Various tactile images are combined: the shadows of plants as they sway through curtains, close-ups of petals, and masses of wriggling snails. The music for this work, recorded by pianist Takahashi Aki after Idemitsu returned to Japan with her children at the end of summer, was specifically composed to accompany these images.

9 *Make Up*

1978, Single-channel video, color, sound, 9 min.

A work that explores new modes of artistic expression using a video camera and monitor. A camera positioned behind the monitor captures the entire process of Idemitsu applying makeup, with the footage displayed in real time on the monitor, which functions as a mirror. A slight delay, however, occurs between the camera and the monitor. In addition, while a mirror produces an inverted image, the monitor displays a normal image.

10 *At Yukigaya 2*

1974, Single-channel video (original: 16 mm film), B&W, sound, 11 min. 10 sec.

Although she was selected for “the 2 nd Underground Cinema New Works Exhibition,” Idemitsu struggled to afford film stock. She found high-contrast film in her room, of a type typically used for shooting titles and credits—and an expensive one at that — but she decided without hesitation to shoot on it. Aware of the high sensitivity of this film stock and its tendency to react sharply to light, Idemitsu captured moments like the sunlight as it fell onto glass shards and pebbles, dappled sunlight through trees, and the lights of the bullet train. For an artist whose life consisted of shuttling between Japan and America, this was also an expression of her own mental state, which belonged to neither country.

11 *At Santa Monica 3*

1975, Single-channel video (original: 16 mm film), B&W, sound, 15 min. 30 sec. Music: John Cage

Like the previous year’s work *At Yukigaya 2*, this work also uses high-contrast film to capture the house where Idemitsu lived for several years in Santa Monica and its surrounding landscapes.

It captures movements of light and shadow, reflections on water surfaces, and flickering light, giving it a lyrical yet experimental quality.

12 *Next*

1973, Single-channel video (original: 16 mm film), color, narration in English, 3 min. 30 sec. Illustrations and Dialogue: CIBA Narration: Marlow Jensen

A video work based on drawings and texts by painter CIBA. A male narrator repeats the same words in sync with two mirrored images. The symbolic forms — echoed across works such as *Inner Man* and the *Shadow* series — are infused with a quiet sense of humor.

13 *Women**

1977, 2 -channel video (original: 6 -channel video), B&W/color, silent, collection of the artist

Idemitsu visited “Hoki-boshi,” a space for women, and asked four women involved in the women’s liberation movement to participate in this work. She gave each of them a video camera and shot them as they used those cameras to go about their own filming. Idemitsu also screened the footage shot by these four women and the footage she had filmed on two monitors at her home, and watched it together with the participants, a process that she also filmed. In the exhibition, these three types of footage were shown on a total of six monitors. This installation was created for a solo exhibition at the Shirakaba Gallery in Ginza; currently, only the tapes for two of the six monitors survive.

14 *At Any Place 4 : From the Habanera of a Housewife by Yoneyama Mamako*

1978, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound (Japanese lyrics), 12 min. 30 sec. Screenplay and Acting: Yoneyama Mamako Mime Camera: Mikoshiba Shigeru Music: Georges Bizet

In 1977, Idemitsu had the opportunity to go to the Hibiya Open-Air Concert Hall to see the legendary pantomime From *the Habanera of a Housewife* by Yoneyama Mamako, who had created and performed this piece herself for International Women’s Year in 1975. Deeply moved and empathizing with Yoneyama’s performance, Idemitsu completed this work by overlaying footage she had shot onto a backdrop of the performance.

15 *Shadow Part 1*

1980, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 25 min. 30 sec. Camera: Michael Goldberg

This was the first work where Goldberg assisted with the filming. Idemitsu borrowed professional equipment from Victor (JVC), while Goldberg handled the camera. Using

Jung’s concept of the shadow — one of the archetypes — as its theme, the work addresses the negative aspects of a repressed female personality. The video monitor depicts the repressed shadow of each performer. All the women who appeared in this work were amateurs: they performed without a script and improvised.

16 *Animus (Inner Man) Part 2*

1982, Single-channel video, color, dialogue in Japanese and English, 19 min. 40 sec. Camera: Michael Goldberg Performance: Kishimoto Sayako

This work embodies the image of the animus that Idemitsu felt when she saw artist Kishimoto Sayako’s performance. Idemitsu identified affirmative aspects of the animus in Kishimoto, such as planning and organizational ability, critical thinking, linguistic expression, courage, and spiritual depth, and so commissioned her for the shoot. In the work, Kishimoto herself actually performs her signature piece, *Hell’s Messenger*, using Idemitsu’s home as the setting.

17 *Great Mother (Harumi)*

1983, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 13 min. Screenplay: Jouta Mizuho Camera: Michael Goldberg

“The Great Mother,” one of the archetypes proposed by Jung, refers to the maternal figure that exists within the collective unconscious: an entity that lavishes love upon children, cherishing and enveloping them. At the same time, this enveloping can also lead to the child being completely smothered and overwhelmed. Alternatively, it may become a force that seeks to monopolize and restrain the child, thereby hindering their independence. This work depicts the inner psychology of a daughter who refuses to go to school.

18 *Great Mother (Sachiko)*

1984, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 18 min. 50 sec. Screenplay: Jouta Mizuho, Idemitsu Mako Camera: Michael Goldberg Special Thanks: Takahashi Yoshimitsu Technical support: Japan Electronics College

A young couple lives with the wife’s mother. The overly close bond between mother and daughter alienates the husband, driving him to alcohol. Unable to break free from her mother’s control, the daughter remains dependent, revealing the dark side of motherhood.

19 *The Marriage of Yasushi*

1986, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 25 min. 20 sec. Camera: Michael Goldberg Translation: Alfred Birnbaum

—

Frustrated by her husband’s patriarchal attitude that prioritized work and neglected the family, the wife directs an excessive degree of affection towards her son. Sympathizing with his mother’s powerlessness against his father, the son and his mother develop a dependent relationship, with the mother’s love for her son becoming distorted. The mother psychologically possesses her son, controlling even his married life.

20 *Hideo, It’s Me, Mama*

1983, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 27 min. Camera: Michael Goldberg Technical Support: Japan Electronics College

This work depicts the actions of a mother displaying an abnormal obsession with her son, who has left home to start a job. In the early 1980s, the new home video format VHS went on sale and began to penetrate households. Seeking to fill her son’s absence, the mother repeatedly plays VHS tapes of him on the monitor in the living room, and prepares meals for the son in that footage. Drawing from her experience raising her children in America, Idemitsu questions the relationship dynamics in Japan where mothers themselves hinder the independence of their children.

21 *Still Life**

1993–2000, mixed media (2-channel video projection, FRP objects, Rose petals, etc.), color, sound Object Creation: Matsumura Issei (Mokukindo Factory) Camera: Ui Tadayuki, Tokyo Eizo Center Sound: Takahashi Ayuo Production: Shinjo Kinichi/Tabata Koichi Object restoration: Oikawa Takashi

Images are projected onto each of two large objects. The projected images feature motifs seen in past works: petals being peeled off and pinned back, symbolizing inner conflict and contradiction. Falling crimson petals resemble menstrual blood. Images of a house are also overlaid onto these objects. The woman struggling to escape the space within these images recalls the protagonist of *Kiyoko’s Situation* (1989), whose path towards creative expression was blocked.

22 *Real? Motherhood**

2000, Single-channel video projection (projected onto a glass crib), color, silent Text: Élisabeth Badinter, *L’ amour en plus: histoire de l’ amour maternel* (XVIIe-XXe siècle), Flammarion, 1980 Thanks to Tabata Koichi, Figla Inc., Akui Naganori, Kawamura Koichi

A work exploring “motherhood” as a theme, which Idemitsu has pursued since her first pregnancy. Photographs and text are layered over a baby crib made of glass. On one side of

the crib is a cross, and on the other are words that swirled around in Idemitsu’s mind, evoked by the word “motherhood” (moral, obsession, tears, myth, error, misreading). The crib resembles a coffin, symbolizing both birth and burial. While it is a place where new life is born, it also serves to bury the existence of a mother as the woman who nurtured that life.

23 *The Past Ahead**

2004, 2 -channel video projection, B&W, sound Music: Carl Stone Edit: Tsuchiya Yutaka Provided by Nippon Eiga Shinsha Co., Ltd, Video Juku Image Source: *Shashin Shuho, NIPPON, Ichioku-nin no Showa-shi, Asahi Chronicle Weekly 20th Century* Special Thanks: Yagi Tatsuo

As in the previous work *Real? Motherhood*, photographs of Idemitsu herself are used in this piece. Overlaid upon this family portrait are wartime newsreels and documentary photographs: images of countless human bodies dominated and destroyed by horrific violence. In this work, Idemitsu explores the themes of family and war. By interweaving personal memory with social documentation, the work depicts how the principle of patriarchy connects to the principle of war — that is, the domination of others through violence.

24 *Kiyoko’s Situation*

1989, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 24 min. 20 sec. Camera: Michael Goldberg 16 mm Camera: Mikoshiba Shigeru, Nomoto Yasuo

A woman who aspires to be a painter marries under pressure from her parents. Overwhelmed by housework and childcare, however, her desire to continue painting meets with puzzlement from those around her. The film depicts the process of a woman being pushed to the brink. Unable to suppress her desire for self-expression, and with her path to becoming an artist blocked, her anguish culminates in heart-wrenching cries. This work was conceived not only from Idemitsu’s own experiences, but also by referencing the relationship between sculptor and poet Takamura Kotaro and Takamura Chieko. It is also dedicated to her eldest sister, who aspired to be a painter in Paris but died suddenly after much suffering.

25 *Kae, Act Like a Girl!*

1996, Single-channel video, color, dialogue in Japanese with English subtitles, 47 min. Camera: Kondo Toshiyuki Lighting: Tawa Masahiro Sound Coordinator: Nakamura Einosuke Producer: Ishikawa Izumi Executive Producer: Yagawa Kazuyoshi

Forced by her parents from childhood to “act like a girl,” and unable to gain proper

recognition at art school because she was a woman, Kae finds herself compelled to spend her creative time and energy on housework, chores, and assisting her husband with his work. Though she initially succumbs to the pressure from others to “act like a girl,” Kae reexamines her own creative drive and builds solidarity with her mother, gradually breaking through her situation. This was also the first time she worked with a rented studio, built sets, and produced under a fully professional framework.

26 Emotional Volatility about My Father
1981, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound, 5 min. 50 sec. Thanks to Mikoshiba Shigeru, Takahashi Yoshimitsu, Arima Sumikatsu Music: Horace Silver

—
Scenes reminiscent of works like *Baby Variation* appear in this work: a girl's doll is gradually crushed by viscous, emotionally charged substances and rose petals, among other elements. In 1981, Idemitsu found herself confronted with her father's death. The founder of the petroleum company Idemitsu Kosan Co., Ltd., described as “a man who embodied patriarchal attitudes like wearing Western clothes,” disowned his daughter when she

married Sam Francis, and only retracted this after her children were born. This work is less a memorial to Idemitsu's father than a daughter's final act of self-assertion.

27 Play and Capriciousness
1984, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound / narration in Japanese, 16 min.

—
After Idemitsu divorced her first husband in 1981, her two sons moved to the United States the following year. Created in the wake of these events, this work quietly captures the early winter sunlight streaming through the window, the plants in the garden and their shadows, and the walls of the house, while Idemitsu herself calmly narrates her state of mind after her children became independent.

28 Whispering Light
1985, Single-channel video (original: 16 mm film), color, sound / narration in Japanese, 11 min.

—
A lyrical work that Idemitsu created the year her mother passed away. Overlaid onto images of plants bathed in soft light, Idemitsu relates memories of her mother during her lifetime,

events surrounding her death, and her state of mind at the time. Many people attended her funeral due to the social standing of her late father and elder brother. Idemitsu narrates this experience, stating that “even after death, a woman's existence is defined by men,” even as she films this footage in memory of her.

- 29 Related Materials**
- Flyer for *Idemitsu Mako Video Installation “STILL LIFE”* (Met Hall Foyer, 8F, Tobu Department Store Metropolitan Plaza, 1993)
 - Flyer for *Idemitsu Mako & Nakatsuji Etsuko: Exhibition* (Sagacho Exhibit Space, 1995)
 - Idemitsu Mako Exhibition Project Executive Committee, ed. by Morishita Akihiko, *Idemitsu Mako Exhibition “I Create. I Create Myself.” Catalogue* (Idemitsu Mako Exhibition Project Executive Committee, 2000)
 - Idemitsu Mako Exhibition Project Executive Committee, ed. by Morishita Akihiko, *Idemitsu Mako Exhibition “I Create. I Create Myself.” Catalogue Part 2: Records and Materials* (Idemitsu Mako Exhibition Project Executive Committee, 2002)
 - Flyer for *Idemitsu Mako Exhibition “I Create. I Create Myself.”* (Fukuoka City Public Library, 2002)

展覧会

企画・構成

田坂博子、遠藤みゆき (東京都写真美術館)

企画補助

邱于瑄、山崎香穂、三井圭司 (東京都写真美術館)

万里 (東京都写真美術館インターン)

広報

池田良子、坂田めぐみ、久代明子 (東京都写真美術館)

英訳

ダリル・ウィー

会場設営

HIGURE17-15 cas

技術支援

田中信至

展示

ヤマト運輸株式会社

作品リスト

デザイン

木村稔将

校閲

櫻井拓 (のぼ本)

編集

東京都写真美術館

印刷

株式会社山田写真製版所

Exhibition

Curated by

Tasaka Hiroko, Endo Miyuki (Tokyo Photographic Art Museum)

Curatorial assistance

Chiu Yu-Hsuan, Yamazaki Kaho, Mitsui Keishi (Tokyo Photographic Art Museum)

Madeno (Intern, Tokyo Photographic Art Museum)

Public Relations

Ikeda Ryoko, Sakata Megumi, Kushiro Akiko (Tokyo Photographic Art Museum)

Translated by

Darryl Jingwen Wee

Construction

HIGURE17-15 cas

Technical Support

Tanaka Shinji

Display

Yamato Transport Co., Ltd.

List of Works

Graphic design

Kimura Toshimasa

Proofread by

Sakurai Hiroshi (Noch Books)

Edited by

Tokyo Photographic Art Museum

Printed by

Yamada Photo Process Co., Ltd.